

- ★ すべての品種で生育が1～2日程度早い！
- ★ 7月5日頃から、ふさおとめで出穂期の見込み！

1 君津地域の生育概況

6月中旬以降、気温・日照ともに平年より高く推移しており、周期的な降雨もあり、十分な中干しができていない圃場もありますが、いずれの品種も水が必要な時期となっています。今後、高温が続くことが予測されますので、湛水管理を行いましょう。

4月23日に移植した「コシヒカリ」は6月22日頃（平年より1日早い）、「粒すけ」は6月24日頃（平年より2日早い）に幼穂形成期を迎えています。

生育初期にアオミドロや表層剥離の発生により、茎数の確保が十分ではない圃場も多いですが、影響を受けなかった圃場では、茎数も平年並からやや多め、草丈もやや高めであり、葉色もやや濃い傾向ですので、紋枯病や倒伏に注意しましょう。

2 生育調査ほの幼穂形成期の調査結果※

品種		田植日	坪当たり 植付株数	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R6年	4/21	52	10.1	57	33.2	525	42.6
	平年値	4/19	52	11.0	56	36.5	573	42.3
	平年比	+2	100%	-0.9	101%	91%	91%	101%
ふさこがね (木更津市)	R6年	4/20	51	10.4	47	17.9	273	45.5
	平年値	4/19	64	10.2	46	20.9	402	40.9
	平年比	+1	79%	+0.2	96%	86%	68%	111%
コシヒカリ (君津市)	R6年	4/23	50	10.7	71	32.8	499	33.7
	平年値	4/25	52	10.9	68	32.0	502	38.1
	平年比	-2	96%	-0.2	105%	102%	99%	89%
粒すけ (君津市)	R6年	4/30	46	10.5	62	25.4	354	34.9
	平年値	5/3	53	11.3	59	27.7	446	37.8
	平年比	-3	86%	-0.8	105%	92%	79%	92%

※平年値について、粒すけ、コシヒカリは令和2～5年の平均、ふさおとめは令和3～5年の平均です。ふさこがねは今年度より調査地点を変更しているため、参考値となります。

※品種ごとに調査日が異なります。ふさおとめは6月12日に、ふさこがねは6月13日に、コシヒカリ、粒すけは6月25日に調査した結果となります。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

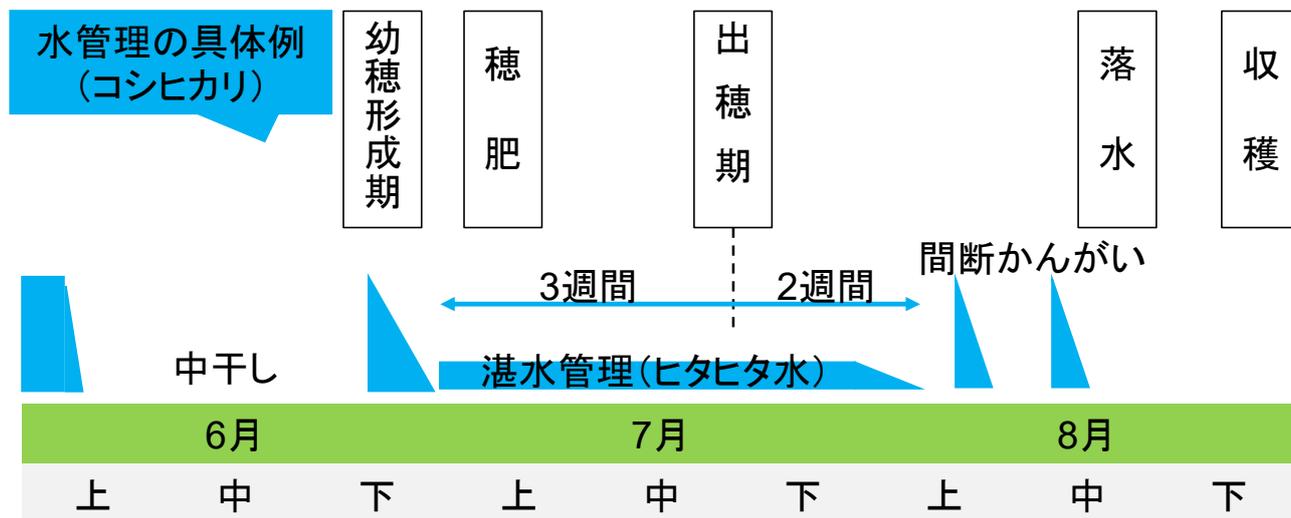
連絡先 小川（おがわ） t.ogw65@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

3 これからの管理のポイント

① 今後の水管理について（節水への御理解と御協力をお願いします！）

出穂期3週間前から出穂期2週間後までは「湛水管理」を行います。その後は間断かんがいをを行い、落水は出穂後25日以降に行いましょう。梅雨明けはまだですが、晴れの予報が続きます。登熟期の水不足は、減収と、乳白米等の白未熟粒の発生による品質低下の原因になるので、かけ流し等には注意し、限られた水資源を有効利用しましょう。

※三島ダムの水位低下による濁水への対応として、節水への御理解と御協力をお願いいたします。



② 斑点米カメムシ類の防除

出穂期前後の畦畔の草刈りは、カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の2週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょう。

防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期（出穂期3日後）」と侵入した大型の斑点米カメムシ類の成虫が産卵した卵から幼虫が孵化する「出穂期から15日後頃」です。

品種	植付時期	出穂期予測（※）
ふさおとめ	4月20日	7月5日
ふさこがね	4月20日	7月7日
コシヒカリ	4月20日	7月14日
	5月1日	7月21日
粒すけ	4月20日	7月13日

※出穂期は、生育ステージ予測システム（千葉県試験研究成果普及情報）を基に予測。

③ 主要病害の防除

気象庁の1か月気温予報では、今後の気温が「高い」と予測されており、高温で発病が助長される紋枯病については多発する可能性があるので注意してください。

○いもち病：止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。

○稲こうじ病：穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期10日前までに、薬剤防除をしましょう。

○紋枯病：茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。特に、飼料用米専用品種では発生が多く見られますので、注意しましょう。

※ 次号は「12月上旬」発行予定